

甲子中間祭新聞

第3号

第3号では、西前山お囃子保存会(一面)と、東前山三頭獅子舞(二面)について紹介をいたします。

お囃子の歴史

今から二七〇年前の一七四三年に、村の中老仁三郎(じさぶろう)という人が、当時の江戸の祭りばやしを型どってあみだし、村の若衆に教えたと伝えられています。このお囃子については、はっきりした記録がなく詳しくは分かっておりません。

このお囃子は、太鼓、三味線(しゃみせん)、笛の三つのパートで構成されています。



塩野神社祇園祭での演奏風景

保存会の歴史

昭和五十九年の甲子大祭の前に、地域の伝統を守るため、保存会として結成され今日に至っております。五年前に十名の新メンバーを加え総勢約三十名で、西前山敬老会、塩野神社祇園祭(七月)で演奏を行っております。

演奏の流れ

甲子祭では、塩野神社の天王様が本殿から東前山の市神のお旅所(おたびしよ)に渡御(とぎよ)され、再び本殿に戻りますが、その際になでられたとされています。

お囃子は六曲で構成されており、最初の曲は「仁三郎」または「仁三郎ばやし」と言い、天王様が本殿を出発する時になでられた曲です。

次に「通りばやし」が一節、二節、三節からなっており、これは現在でいう行進曲です。次の「江戸ばやし」ですが、この曲は天王様が本殿に近づくと共に自然に氏子達の足取りも軽くなり、その様子を表し心うきうきした曲です。

次の「片しゃぎり」は、天王様が本殿に帰還された喜びを表した華やかな曲です。

会長のコメント

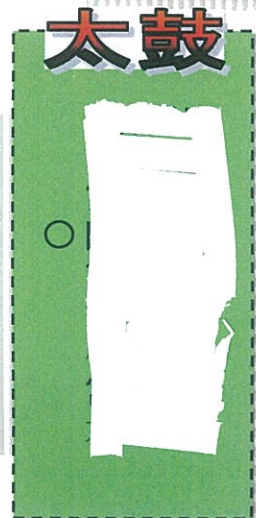
小山友司

中間祭が行われる重要な年に、会長という大役を任されて、日を追うごとに重圧を受けている今日この頃ですが、地域の伝統文化を守っている喜びも感じています。

中間祭に向けての練習は、まだまだこれからですが、ほとんどのメンバーが中間祭実行委員会とかけもちの短期集中で練習を行い、本番では素晴らしいお囃子をかんでたいと思います。

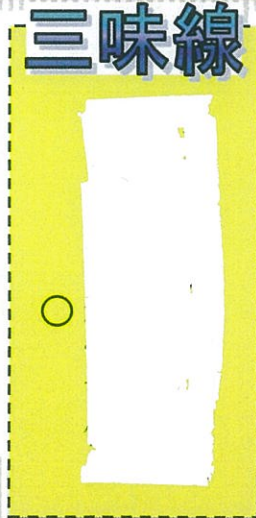
メンバー紹介

太鼓



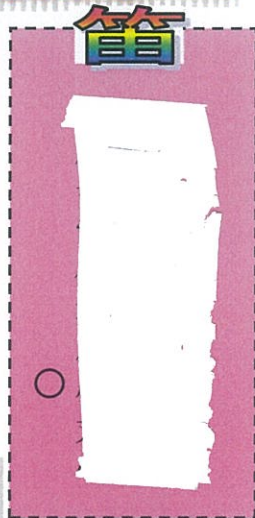
○印：会計 兼 パートリーダー

三味線



○印：副会長 兼 パートリーダー

笛



○印：会長 兼 パートリーダー